

# フィンランドに向けて

## 日本代表チームにインタビュー

# INTERVIEW

4月15日と30日の選考会によって、この夏の世界選手権に出場する日本チームが決まった。今、チームはこれまで以上に充実した合宿を行い、またメンバーの中には、6月の北欧選手権からフィンランドでトレーニングを積むものもいる。

### 田島 利佳

1971年12月生まれ 29歳 埼玉在住  
みちの会 日本HP(株)  
95,99年世界選手権出場



2本目の選考会は、「土俵際でのこった」という感じですね。ああいう勝負ところでの強さってというのはどこから生まれてくるのでしょうか。

本当に2本目は105%に滑り込んだ、という感じ。でも当日は嬉しいというよりホッとしていました。ラッキーといえばラッキーだったし、当然といえば当然です。うーん、あまり勝負強い、と意識したことはないのですが、周りからはよく言われる、なんででしょう。そういえば、97年のセクションレースの時を除いて、本当に自分にとって大事なレース、そのために準備をしたレースは失敗してないなあとは思いますが、きちんと手続きをすればミスを最小限に抑えてきちんと進める、けして遅いわけじゃない、それが結果的に速いんだとか、もう自分を

嘘でもなんでもいれから、いいように信じ込ませる、具体的に手続きしてうまくやっているイメージを頭の中で何回も何回もリハーサルして当日レースに臨む、ゴールするまでレースをあきらめないとかからですかねえ。自分をだますのがうまいのかなあ。まあ、信じ込ませるほどのものを持ってわかっている(自分のオリエンタリングの長所や武器など、)からこそなのかな。うーん、それでもたいした武器を持っているわけじゃないなあ。長い年数やっている、そこから生まれるいろいろな経験も大きいのかな。

他の選手に対して、体力的に負けている面があるんじゃないですか? 体力面への対処はどう考えていますか?

ええ、2回のチーム合宿を通して、他の選手はガシガシ走っていてフィジカル面が強くて羨ましい、と思いました。同じように走ることはできないだろうけど、しなやかに走りたいなあ、と、感覚的な言い方ですが、そう思っています。とにかく基礎体力を向上しなくてはならないので、5、6月は走行距離に関しては200kmに限りなく近づけること、そのために週5日は走るようになっています。距離のことだけではなくトレーニングの質と強度のことも考えています。

週末は近所の山へ出かけてオフロードを走る(幸い近くに天覧山、加治丘陵、日和田山や七国峠のトレインはあるし、奥武蔵、奥多摩のハイキングコースも近い)、2週間に1度はLSD 15~20kmマラニックなどを行っています。スピードトレーニングやupの強化はこれからです。週に1度水曜は渋谷に出かけてトラックを使って走りたいなーとも考えていますが仕事次第ですね。ここまでやればだいぶ体ができてくるのではないかと思います。

それとともに、最近疲労をとることが大きな課題になってきました。20代前半の頃と比べたら、はるかに(これでも)トレーニングをしていて体力もついてきているのですが、反面、疲労度は非常に高くなってきています。トレーニング前後のストレッチ、アイシング、質のよい睡眠、3度のパラン

スのよい食事と量の確保、体調管理など本来は当たり前のことですが、意識してやらないとなかなかできません。これらをきっちりコントロールしていくことで、トレーニングも順調にこなせるのだな、と実感しています。

3回目の代表ですね。そろそろ参加するだけでなく結果をという気持ちも強くなっていると思いますが、目標をお聞かせください

そうですね、「3度目の正直」というのがぴったりです。

1番の目標はショートクワラシックで予選通過という目標です。でも現段階ではクワラシックは決勝のことまでは考えられていません。ショートに関しては漠然とですが、予選、決勝を走っているイメージができています。これはきっと今の体力面の評価からそう考えているのでしょうか。でもクワラシック決勝を走ることは、初めて参加した95年のドイツ世界選手権の頃からのあこがれなので、どうにかしたいな、とは思っているのですが。

たとえ通過ができなくても、準備してきた過程やレースの結果をプラスに評価できることを多く残したいですね。

### 落合志保子

1974年1月生まれ 27歳 愛知在住  
OLCルーパー  
99年世界選手権出場、2000年度日本  
ランキング2位

今回は、6月上旬から遠征されて、7月までフィンランドでトレーニングを積むと伺いました。どんな予定でトレーニングをされるんですか?

期間は6月3日から世界選手権までです。基本的に一週間周期でトレーニングの重い週、軽い週という感じで計画しています。その中には北欧選手権やフィンランドで最大のリレーイベントであるユッコラ、またチェコチームのトレーニングに参加などと刺激的な内容もあります。



前回の世界選手権以後、日本を代表する選手としての貫禄がついてきたように思えますが、2回目である今回、どのような抱負をお持ちですか？

去年の秋までは確かにそういう内容のオリエンテーリングだったのですが、今年はとても代表する選手などと言えるような状態ではありませんでした。セレクション第2戦からようやく目が覚め少しずつ貪欲さとスピードを取り戻しつつあります。目標は予選通過です。その壁の高さを前回痛感したのですが、それでもやはり予選を通過しないと出場している意味がないと思っています。

地元愛知で2005年に世界選手権で開催されるということで、何かと注目されることが多いと思いますが、いかがでしょうか。

生活のいろいろなことが2005年のために動いている気がします。特に世界選手権の位置づけがこれまでと変わってきて、毎年開催、決勝のみという方向に進むのなら、なおさら2005年にむけて女子選手は真剣に取り組まなければいけないと思います。たとえ地元枠で日本選手が出られたとしても、それ以外の選手と現在のように差がある状況では一般の人たちに対しては恥をさらしているようなものです。そういう意味でも、次へのステップを踏むために今年決勝に進出することは必要条件だと考えています。

## 中村正子

1975年1月生まれ 26歳 東京在住  
京葉OLクラブ (株)NTC  
95年、96年度日本学生選手権クラシック優勝、2000年度日本選手権2

位

全日本や選考会など、シーズン後半の調子がよいですね。その背景には何があるのでしょうか？

去年の春から再びトレーニングを始めて、体力的な不安がなくなったことが一番だと思います。結果が出始めたのが早稲田くらいからですが、選考会1戦目予選のように、1発ドカンと大きなミスをして沈むことも多く、まだまだオリエンテーリングは不安定です。



登りや走りでは圧倒的な強みがあるように思います。どんなトレーニングをしているんですか？

学生の頃は定期的に筑波山に登り、登坂力を鍛えていましたが、今住んでる場所は坂がなく、レースやマラニック以外ではほとんど登りのトレーニングが出来ていません。しかし、3月に4年ぶりに登った筑波山で、学生時代のベスト+1分くらいで登り、まだそこそこ登れることを確認しました。

また、走りの面については、トレーニングの中心が朝(ジョグ/6~10km)なので、距離は稼げているものの、追いにんだトレーニングがなかなか出来てない状況です。しかし、WOCまではなんとか水曜夜に時間を作って、渋谷に走りに行こうと考えています。

そういうわけなので、トレーニングに裏打ちされた「強み」ではないのですが...しいて言えば、自分の強みはこれだ！と自信を持って走って(登って)いるからでしょうか。ちょっとくらいミス(ロス)をしても体力的な不安がないのでそれほどめげないし...

昨年のフィンランド(ワールドカップ)ではコテンパンにやっつけられたという感じでしたが、リベンジの戦略があったらお願いし

ます。

ええ、もう、初めて海外遠征した JWOC (94年)の時のような感覚で、本当にコテンパンという感じでしたね。。去年に比べると体力的な向上もありますし、あと残り少ない期間ですが、直進と歩測を武器に出来るよう練習を積んで挑む予定です。フィンランドの地図を見て、現地の風景が想像出来ることだけが去年の収穫ですが、でもそれは、とても重要なことだと思っています。地図を見てニヤニヤしながらたくさんイメージトレーニングをしています。

## 塩田美佐

1978年6月生まれ 22歳 茨城在住  
筑波大学院  
2000年度東日本大会優勝、2000年度日本学生選手権5位



昨シーズンの後半の成績は目を見張るものがありました。いったいそれまでと何が変わったのでしょうか？

自分の体力に技術が少しずつ備わってきた結果だと思っています。でも、なにが変わったといわれても難しい...。とまっている時間や回数減少。コンタが前よりも読めるようになって、実行も伴うようになり、プランの段階で自分が使えるものが増え、情報を複合化できる事が多くなったこと。そして、注意すべき事が経験等から徐々にわかるようになってきたので、CPがはっきりしスピードが出せるようになった事でしょうか？

まだ、レース結果には波があるようですね。世界選手権に向けてどんな対策を考えていますか？

複雑な地形等は、はっきり言って普通の人に比べて読めないです。なので、正確な直進を身につけ、歩測も使えるようにして、自信を持って「直進なら使える」状態で思いきりのよいレースをしようと対策を練っています。また、日々プランニングの練習をして確実なルートを見つけられるように、根拠のある行動をとれるように訓練しています。そして、早めに遠征してテレビに慣れておくつもりです。

早めに遠征し、レースに備えるということですが、抱負をお聞かせください。

予選通過ができれば最高です。リレーに関しても順位が上であれば上であるほど..。そして、今後にもつながるよう多くの事を吸収してこようと思っています。

## 金並由香

1971年12月生まれ 29歳 東京在住  
足立学園

97,99年世界選手権出場、99,2000年  
度日本選手権優勝



全日本、二本目の選考会とも優勝ですが、レース内容をどう評価していますか？

両方とも分単位の大きいミスを一箇所していますが、レース全体を通して気持ちが前に向かっていったという気はします。途中でレースを投げ出さずに、積極的に動けてたことで。多くの場合ミスの後それをひきずってしまい、必要以上に消極的なルートを選んできたり、動くときにも躊躇してもたついたりするのが2レースにはなかったように思えます。だから走り終わっても気持ちよかった。特に集中していたとか、そういうことはあまりなくて、ただ気持ちよくスピードに乗って走れたレースでした。

上記2レースに比べると他のレースは今

一つという印象もあるんですが、どうお考えですか？

秋のシーズンから含めて、ミスの無いレースがないのでそういう意味ではすべて今一つの内容かもしれません。前述の2レースと違いがあるとすればミスをした後の気持ちの切り替えがうまくいき、ミスを引きずらず走れたかどうかでしょうか。根が適当な気分屋なので今までも天気がよいと成績もよいとか、やりたくなるとレースを投げ出してしまったりとか、そういう波が大きいという自覚はあります。

世界選手権に向けての目標をお願いします。

今まで順位とか具体的な結果のイメージを抱いてレースに臨んだことがないもので、予選通過が目標といいたいところですが、正直よくわかりません。ただ、目指すレースの内容はあります。レース中ずっとオリエンテーリングをし続けること。これは地図読みをして、コンパスを見て、プランを立てて実行する、という基本動作をサボらないということです。全日本などでも大きくミスしているのは、その部分なんとなくこれでいいのかなーとよく地図も読まずに、コンパスも見ずに感覚で進んでいたから。なので、1レースずっとオリエンテーリングの基本動作を怠らないことがまず一つの目標。自分の能力に合ったルートを見つけ根拠を持って動くこと。なんとなくで動かないこと。

結果に納得できるレースをする、これが3度目のWOCの目標です。漠然としすぎてますかねえ。

## 木植早生

1960年9月生まれ 40歳 茨城在住  
チーム白樺

85,89,91,93,95,97年世界選手権出場、  
日本選手権4連覇

インタビュー記事はありません。ごめんなさい。

## 村越 真

1960年4月生まれ 41歳 静岡在住  
静岡OLC 静岡大学

81,83,85,87,89,91,93,95,97,99年、10回

連続世界選手権出場、日本選手権15連覇

最近、かつてのような圧倒的なラップがないですね。限界説がささやかれているようですが、本人はどうお考えですか

限界というのは、自分の力がチームとして必要されるか、あるいはその力で選手に残れるかという視点の話であって、いつでも選手というのは限界でやっている訳ですから、自分としては、そう言われても自分のオリエンテーリングには何の関係もありません。正直なところ、トレーニングをしていて、充実感が減っているというのは確かですね。現実的な話としては、自分にキレがない分と他の選手が大きく伸びている分、両方あると思いますね。



今回は最後の世界選手権と表明されているようですが、これで引退されるということでしょうか。

これも、ここ何回かは、「いつ最後になっても後悔しない」、と言い聞かせてきましたから。世間が考えるほど、この言葉に大きな意味はありません。一種の動機付けの道具です。社会環境的に次回2003年はどう考えても視察役員としていくことになるので、参加は難しいでしょう。でも、世界選手権の毎年開催が決まれば2004年というチャンスもできます。2006年ならほんとに現実味があります。まあ、世界選手権が終わってから考えます。

最後にかける抱負をお聞かせください。

うーん、これもマスコミの質問だなあ。最後だからどうこうっていうのは選手にはないんですよ。いつでもその世界選手権は「最後のその世界選手権」なんです。まあ目標としては、30位。これはショートですけど。97年の感じからすれば達成できないと考える理由は何もないです。あとリレーですね。どれだけエキサイティングなレースができるか。その結果10位台前半に行きたいなど。

## 高橋善徳

1977年6月生まれ 23歳 福島出身  
筑波大大学院

99年度日本学生選手権クラシック  
優勝、2000年度日本選手権 5位



第二選考会のゴールシーンは感動的(通過ラインまであと1分のところで最終コントロールに姿を見せ、秒読みの中ゴール)でした。あのレースをどう評価していますか？

ベストなレースではなかったと思います。ただ、あのプレッシャーのかかる場面、結果を残さなければならない場面すべきレースは出来たと思っています。そういう意味では、全日本といい、自分の力をある程度発揮することができる選手になってきているのではないかと感じています。

レース内容に関していえば、自分の今の悪いところ、フィンランドに持って行ってはいけな癖なんかが発見できたので、とても収穫のあるレースでした。

昨年のユニバーに続いて、二度目の日本代表です。昨年からの自分の実力の変化をどう考えていますか？

正直言って自分の中では何もかわっていません。トレーニングも、技術的にも、相変わらずミスはするし、後半走れないし、一番変化したことは自分の中の気持ちの変化だと思います。

オリエンテーリングをこれまでやってきて色々な意味で視野が狭かったと感じています。それが、少しは広がったかなと感じています。今までは、ただオリエンテーリングだけやってれば良かった。でも、オリエンテーリングは本当は自分の人生の中であって、その中でどう位置づけていくのか？自分はオリエンテーリングとどう付き合いたいのか？就職も控えているという立場、またビオルナーの講演を聞いたことによって、そのような自問自答を繰り返しました。人生で競技的に頑張れる時間

は本当に少ない。本当に心からそう感じたこと、そして僕はオリエンテーリングが好きだと感じたことが、一番の変化だと思います。

高橋さんは、いつもトレーニング日誌を持ち歩くなど、研究熱心なことで知られています。今回の世界選手権に対する特別な対策などは考えているんですか？

研究熱心というか、ただの趣味です。今回の世界選手権に対しては、特別なことは考えていません。日本でできる準備をきちんとして日本でやるようにオリエンテーリングをしっかりとしようというだけです。ただ、去年フィンランドに遠征に行った経験からルートプラン、直進、歩測はきっちりやっていきたいなと思っています。もちろん向こうでも練習することもあると思いますし、試行錯誤はすると思いますが、日本でできないことがフィンランドでできるはずはないのでまず日本でそれらのことをきちんと詰めていきたいです。ルートプランは毎日行ってます。目指せ2000レグ！を掲げ常に地図を持ち歩いています。

## 加賀屋博文

1968年7月生まれ 32歳 東京在住  
渋谷で走る会 (株)東京スタジアム  
95,97,99年世界選手権出場、2000年度日本選手権 3位

回数のことを言うと、いよいよ殿堂入り(4回出場)ですね。そのことの持つ意味についてどのようにお考えですか？

4回出場というのは自分が継続的に努力を続けてきた証でもあり、嬉しく思います。しかし、肝心なのは世界選手権での結果であり、最初のドイツ以降の2回は単に参加しただけ程度でしかありません。今回はしっかりと結果(予選通過)を出して、殿堂入りに相応しいといわれるようにしたいです。

今年は、お仕事が忙しいと伺っています。WGの代表という立場もあり、かなりトレーニングの確保なども大変だと思います。どんな工夫をしているんですか？

4月から予想外の異動になり、仕事が忙しいというか、これまでのようにきちんと土日が休みでなくなったのでペースをつかみづらいです。夜サッカーの試合がある日などは確実に12時を過ぎるので、毎

日コンスタントに走るのではなく、走るときは15~25km走り、残業する日はストレッチだけ、とメリハリをつけています。トレーニング日数は少ないものの、走るときはいつも内容を考えて追い込むようにしています。睡眠時間は確保するように気をつけています。きついトレーニングをするためには、寝ることと栄養をとることは欠かせませんから。



WGも含めて、抱負をお聞かせください。

世界選手権ではクラシック予選通過、リレー15位。これは十分可能な目標なので、きっちり結果を残したいです。WGはちょっとでも調子が悪いと最下位、といった凄いいレベルですが、世界選手権で結果を残せばその勢いでいけると思います。地元だし、親戚一同もくるので上半分、20位以内は狙いたいですね。生涯最高のスピードを目指して走ります。

## 鹿島田浩二

1970年9月生まれ 30歳 東京在住  
渋谷で走る会 (株)荏原製作所  
91,93,95,97,99年5回連続世界選手権出場、2000年度日本選手権 2位

6回目の代表ですね。おめでとうございます。数多く代表になる経験が有利になる反面、マンネリ気味というか、明確な動機づけが難しいという側面があると思うのですが、そのあたりはどう工夫しているのでしょうか？



正直なところ、自分の中で、20代前半の頃のようなわくわくした気持ちが少ないのは確かです。ですから、自分なりに工夫をしないと今までのWOCと同じように迎えて同じような成績をとってしまう恐れは感じていました。そういった中で、チーム内の競争の激化などはいいい刺激になっています。合宿のメニュー一つ一つにハリがある。前回以上に面白いですね。またチームの中で自分の立場の変化も、自分の中でのマンネリ化を防いでくれています。ようは工夫次第ですね。

昨年の秋、特に多摩あたりは非常に切れのあるレースができてましたね。今はちょっと体調的にも落ちていますが、残る2月でどう調整していきますか？

今回のWOCに向けてトレーニングを再開したのは昨年の10月です。ちょうど11月はそれなりに体が出来てきた時期で、その中で疲労の抜けた状態で望めた多摩はいいレースができました。

それ以降はすべてのレースが今ひとつですね。巡航スピードが遅いのが特徴です。最近他選手のスピードが向上していることもあります。自分自身OLで2%程度のスピードの低下を感じています。最近年のせいか疲労をためやすいので、それがレースに影響している傾向があります。じじいなりの調整方法をまだ身につけていないということですね。その点は、6月3日の東大会で調整方法を変えて試してみたいと思っています。

ずばり今回の世界選手権の目標はどんなところでしょう？

前回もそうでしたが、自分の中で一つのマイルストーンになっているのは97の村越さんの成績です。村越さんの話を聞いても、それに若干の上乗せをして、クラシック40位、ショート35位というのが現実的に自分が目指すべき成績だと思います。リレーに関しては15位です。2005年に向けての日本の向上と、現状の実力を考

えた場合に重なる合理的な目標だと思えます。達成のためにはメンバー全員が国内のレースと同じようなパフォーマンスを出さなければいけません。昨年のWC2000でも指摘されているように、現状のチームの一つの課題ですね。

## 松澤俊行

1972年9月生まれ 28歳 東京在住  
京葉OLクラブ (株)アベックス  
99年世界選手権出場、2000年度日本選手権優勝



昨年の特に後半は、スピードを犠牲にせずに確実さのあるレースができるようになったという意味で、「松沢流」を確立したシーズンだったと思います。何がそれを可能にしたのでしょうか？

ミスの頻度は、実は大して変わっていないのかもしれませんが、一回一回が小さくなりましたね。それは方向の維持や変換・距離感・地形読みの精度が少しずつ上がった結果だと思います。

あとは精神面です。この一年間は、ミスはミスとして受け入れ、しかるべき対処を図る落ち着きがありました。結局、オリエンテーリングに対する理解が増したということでしょう。オリエンテーリングに対する、というより、「競技」「勝負」「実力」といったもの全般に対する理解ですかね・・・。

何年も前から、レースには常に勝ちたいという気持ちで臨んでいました。それで、緊張感を保っている内は良いのですが、ひとたびミスをすると「こんなことをするようでは勝者としてふさわしくない」と思込んで気が急激に萎えてしまう、というパ

ターンを繰り返していました。「勝利」に対して甘美な幻想を抱きすぎていたのではうね。

最近、勝利とは汗臭く、泥臭く、人間臭い争いの末に決まるものだと言いつけていますので、苦しい局面でも踏ん張りが利きますし、勝つとますます嬉しい気持ちになれます。そして、自分以外の勝者にも今まで以上に敬意を払えるようになりました。

根の上高原での選考会を見ると、見通しの悪い難度の高いテレインでは、今一つその松沢流が通用していないようです。フィンランドでも見通しの悪い難度の高いテレインが予想されますよね。

ううむ、根の上ではやられました。自分が器用ではないことを再認識しましたね。技術的なことでは、先日行なわれた合宿で「見通しが悪くろうが直進の精度は保っている。ただし見通しが良くなった途端に見えた物に飛びついて手続きを放棄する傾向がある」と気がきました。「見通しの悪さ」というよりも、「見通しの変化」に注意を払う必要があります。あと、面積の大きい目標物に向かう際も気を抜いてコンパスへのコンタクトを怠りがちです。この時期にこうした課題がハッキリしたのは幸運でした。

フィンランドのテレインに挑む際は、緩斜面をラフに進むところで「風景から地面の傾きの方向を貪欲につかまえ、地図では等高線1本1本を大切に読んで、斜面をどう横切るか常に意識すること」が大切でしょう。また、アタックではきちんとしたアタックポイントを設定するのは当然として、さらに「アタックポイントとコントロールの間にもう一回アタックをかける」くらいの気構えを持ちたいと思います。

この「もう一回アタック」というのは「優れたサッカー選手はペナルティエリア内で決定的なパスが出せる」という話に触れてから意識するようになったのですが、具体的にはコントロールに接近しながら貪欲に情報を読み取り、歩測をリセットする・僅かな方向変化でもコンパスのリングを回す、といった行動をイメージしています。

前回は出ることが大きなステップという側面があったと思いますが、今回は2度目ということで、世界選手権でどんなパフォーマンスをあげるかが問われると思います。

ずばり目標はどんなところにあるのでしょうか？

個人レースでは「予選通過・決勝で30位以内」、リレーでは「リレーらしい競り合いを制し、チームとして10位以内」を目標に置いています。これは自分にとっては大変に難しく、だからと言って不可能ではなく、達成したら何週間かはいい気持ちでいられるような、充分に魅力的な目標です。日本でしている好調時のレースがかの地で再現できれば何とか・・・と考えています。

最近日本でも多くの国際的イベントが開かれています。注目される海外の選手は世界のトップ層に限られています。でも、我々がまず渡り合って、倒し、越えていかなければならないのはイタリア・フランスといった「中堅国らしい中堅国」の選手たちです。自分にとってというだけではなく、これは日本全体で真剣にとらえていくべきステップだと思います。皆さんにも「打倒イタリア」を合言葉に、ご注目いただきたいものです。

## 安井真人

1977年5月生まれ 24歳 愛知出身  
三河 OLC (株)大塚商会  
2000年度日本学生選手権クラシック優勝



新人(今年就職)にもかかわらず2週間の休暇が取れたそうですね。おめでとうございます。会社ではこのことはどう評価されていますか？

恐る恐る人事の方に話したのですが、思いのほか反応が良くぜひ頑張ってくださいという感じでした。2005年に愛知での世界選手権開催の話をしたら、そのときもぜひ代表になってくれと言われました。

また今回の遠征を社報で大々的に取り上げていただけるようです。

何でも休暇が取れなければ、辞めるだけだとおっしゃったとか。それだけ世界選手権は価値があるという事でしょうか。

まだ若いので就職しようと思えばまた就職できると思います。それに引き換え世界選手権は2年に1度に本では12人しか出られませんし、こんな貴重な体験ができるのは若いうちだけなので、会社を辞めてでも参加する価値はあると思います。

初めての日本代表ということで、不安な面もあると思いますが、世界選手権に向けてどんな対策を考えていますか？

初めてということで、強気の自分と弱気の自分がごちゃ混ぜになっています。ただ「初めてだから遅くても許されるだろう」というネガティブな気持ちでは走りたくないです。対策としては、歩測の習得、フィンランドの地図でのマップトレーニング、徹底的なイメージトレーニングをして、スタートに立ったときあたかも初めてではないような錯覚に落ち入れたいなと思っています。

## 藤井範久

(ジェネラルマネージャー)

2000年夏、2005年に世界選手権大会が日本で開催されることが決まりました。これは、2005年の世界選手権という世界最高峰の大会が世界から注目されるだけで

なく、それに向けた日本選手の活躍も世界から注目を浴びることを意味しています。今回の世界選手権大会は、その第一歩として、目に見える形で結果を残したいですね。具体的には、個人戦では複数の選手が決勝に進出すること、そして30位台の順位を付けること、またリレーでは10位台前半を目標にしています。これらの目標は、この1年間にスコアがやってきた強化合宿などの強化活動の成果として、十分可能性のある目標だと考えています。

ただ、本来、日本代表選手の強化活動は、スコアのような任意団体が行うのではなく、日本オリエンテーリング協会が行うべきものです。我々も日本オリエンテーリング協会に働きかけをしていますが、なかなか進捗がみられません。理想的には、選手強化専門委員会みたいなものが設置され、我々がそれに協力する、もしくは我々スコアの選手強化活動を日本オリエンテーリング協会の活動として認めてくれるといいなと思っています。

いずれにせよ、今回の世界選手権大会は、2005年の世界選手権大会に向けた試金石となる大会です。皆さんの期待にそえるよう、そして世界から「日本も強くなってきたな」と言われるような大会にしたいですね。

